

日本教育社会学会 第7回若手研究セミナー 開催のお知らせ

2019年2月14日

日本教育社会学会教育部長 山内乾史

日本教育社会学会では、教育社会学研究の研鑽を積んでいる若手研究者を対象に、教育社会学の最新の知識の習得と参加者相互の新たなネットワークの構築を図ることを目的としたセミナーを、下記の要領で開催します。

- (1) 主催 日本教育社会学会
- (2) 日時 平成31年3月16日(土)13時～3月17日(日)15時40分
- (3) 場所 関西国際大学尼崎キャンパス
〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江1丁目3番23号
(JR神戸線・東西線 尼崎駅 下車 徒歩約5分)
- (4) 参加対象 大学院生または若手研究者で教育社会学に関心のある方(非学会員も可)
- (5) 定員 50名(定員になり次第、締め切り)
- (6) 参加費 1,500円(当日支払い)
参加費は、資料冊子の印刷費及び通信費等に充当します。交通費・宿泊費につきましては、各自でご準備ください。
1日目終了後、懇親会をホテルヴィスキオ尼崎(JR尼崎駅付近)にて開催します。
参加希望者は4,000円を別途ご用意下さい。
- (7) プログラム 別紙1の通り
- (8) 申込方法 参加をご希望の方は、申し込み期間内に、下記メールアドレスに必要事項を記入して送信してください。後日こちらから申し込みフォームを連絡させていただきます。
申し込みメールアドレス：hara@bukkyo-u.ac.jp(教育部副部長・原清治(佛教大学))
- 〈必要事項〉 ①氏名、②フリガナ、③所属(大学院生は学年も)、④学会員か非会員かの別、⑤メールアドレス、⑥電話番号、⑦研究テーマ、⑧16日講演会参加の有無、⑨講演後の懇親会参加の有無、⑩17日実施の参加を希望するワークショップを記入して下さい。
あらためて、担当者より確認の連絡と事前準備ワークシートをお送りします。
- 〈受付期間〉 平成31年2月14日(木)～2月28日(木)
- 〈事前準備〉 参加される方は、別紙2に示した事前準備をお願いします。
- (9) 問い合わせ **【日本教育社会学会第7回若手研究セミナー】**(担当：教育部副部長・原清治)
E-Mail：hara@bukkyo-u.ac.jp
- (10) 共催 関西国際大学

(別紙1) 第7回若手研究セミナー プログラム

日	時 間	内 容
3 月 16 日	12:30 ~ 13:00	受 付
	13:00 ~ 14:00	開会挨拶 山内乾史 教育部長 参加者自己紹介、ワークショップ準備
	14:00 ~ 15:00	講演1 お茶の水女子大学・名誉教授 宮島喬 「近代的公教育における平等と不平等、再生産 —デュルケム、ブルデューから学び、考えたこと—」
	15:00 ~ 15:20	休 憩
	15:20 ~ 15:35	討論者 白鳥義彦 神戸大学大学院人文学研究科・教授
	15:35 ~ 17:00	質疑応答・ディスカッション 司会：北村友人 教育部副部長
	17:30 ~ 19:30	懇親会 ホテルヴィスキオ尼崎 (https://www.hotelvischio-amagasaki.jp/)
3 月 17 日	10:00 ~ 11:30	<u>ワークショップ</u> 3つのテーマ別グループに分かれてグループワーク 1 個人化する社会の社会学 ファシリテーター：堀家由妃代 (佛教大学教育学部 准教授) 2 オリジナリティを高める ファシリテーター：内田良 (名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 准教授) 3 持続可能な長期的研究計画を構想する ファシリテーター：相澤真一 (中京大学現代社会学部 准教授)
	11:30 ~ 12:40	昼 食
	12:40 ~ 14:10	ワークショップの続き
	14:10 ~ 14:30	休憩
	14:30 ~ 15:20	全体での振り返り
	15:20 ~ 15:40	閉会式 参加者アンケート

※参加者事前準備

別紙2「第7回若手研究セミナー ワorkshop一覧」の「事前準備」欄の指示に従い、参加申し込み後に別途お送りするワークシートに、必要事項を記入の上、平成31年3月8日(金)までに hara@bukkyo-u.ac.jp までお送り下さい。

(別紙2) 第7回若手研究セミナー ワークショップ一覽

ワークショップ1	テーマ	個人化する社会の社会学
	ファシリテーター	堀家由妃代（佛光大学教育学部 准教授）
	内容	日本の教育社会学はこれまで多くの教育課題に挑戦してきたが、世の中はますます「個人化」の方向にある。 1) 従来教育社会学が取り扱ってきたテーマの個人化：いじめや不登校問題は依然として当事者の「心」に焦点化され続け、学力問題に至っては「非認知スキルの育成」により、ハイパーメリトクラシーが加速する傾向にある。 2) 比較的新しいトピックの個人化：障害者問題、性の多様性などについて社会学からのアプローチはあるが、依然として「個人の身体の中」の問題とされる傾向にある。
	事前準備	1) 2) のような問題について示唆的な論文を持ち寄り、共有したい。1) については、これまでの教育社会学研究の蓄積をより現代的な文脈で読み解くことができるような論考の準備を、2) については、国内外の最新の情報を紹介できるように資料を用意してください。各自がそれぞれを簡単に紹介するイメージを持って臨んでください。
ワークショップ2	テーマ	オリジナリティを高める：テーマ，調査対象・資料，情報発信
	ファシリテーター	内田 良（名古屋大学大学院教育発達科学研究科 准教授）
	内容	学術研究においては、高いオリジナリティが求められます。そのために、1) どのようにして研究テーマを設定すべきか、2) どのような調査対象者や資料を選定すべきか、3) 情報発信をどのようにして活用すべきか、の3つの側面を検討します。 またその際には、研究遂行上のリソースをそれほど多く有していない立場を想定し、その少ないリソースのなかでオリジナリティを高められるような実現可能性（低コストな研究遂行の方法）も追究します。
	事前準備	1)~3) のいずれかに関して、オリジナリティを高めることに成功していると思われる論考を探しだし、少なくとも1本は簡潔に口頭等で紹介できるよう準備してください。ワークショップでは、参加者各自がその論考の魅力を紹介し、自分自身の研究の方向性を探っていきます。
ワークショップ3	テーマ	持続可能な長期的研究計画を構想する
	ファシリテーター	相澤真一（中京大学現代社会学部 准教授）
	内容	博士論文を短期間で執筆するように求められ、研究成果を急がせられる傾向は年々強まっている。一方で、長く研究を続けていくためには、中長期的なプランのなかで、個人・共同研究の可能性を含めながら、優先順位をつけながら研究を進めていくことが求められていくであろう。そのプランニングの一助になるようなワークショップを企画する。
	事前準備	次のような問いをワークシートに記入してもらおう。 ・博士論文のテーマをどのように決めたか？ ・院生時代に、博士論文で選んだテーマ以外にどのような研究を構想したことがあるか？ ・博士論文を書いているうちに、どのようなテーマに興味を持ったか？ ・そもそもどういった研究をしてみたくて大学院に入ったか？

※事前準備については、参加申込み後、別途お送りするワークシートに、希望するワークショップで指示された内容を書いてご準備ください。